

憧れの仕事に就いて

横浜市小学校教諭 橋本 智絵

2014年3月に神戸学院大学を卒業し、同年4月に横浜市の小学校で教壇に立ちました。3月31日と4月1日を境に、自分の置かれている環境が一変し、最初は戸惑うこともありました。四年間の思い出が詰まった神戸から、踏み入れたことのない横浜へ。学生から、社会人へ。教えてもらう立場から、教える立場へ。ただ、そのような中でも、新しい場所に踏み入れるときのワクワク感や夢が叶った嬉しさは、抱いていた戸惑い以上にありました。

「小学校の先生になりたい」ずっと持ち続けてきた将来の夢です。母が先生として働く姿を見てきたこと、小学3年生のときに忘れられない恩師に出会ったことがきっかけで、教員は私にとって憧れの職業でした。大学では、教職課程で中学校・高校の英語免許の取得に励みながら、神戸親和女子大学との提携による通信教育で、小学校免許の取得を目指しました。学部の単位と教職課程の単位、さらに通信教育での単位取得が重なり、負担は少なくはありませんでした。ただ、免許取得のために何をすれば良いのかがはっきり見えていたことや、支えてくれる家族や友人、指導してくれる先生方がいたことで、最後までやりきることができました。

学生生活は、初めての一人暮らしをし、ダンスサークルに所属し、飲食店でアルバイトをするという、大学生らしい生活をしていました。家庭教師や学習塾のアルバイトや、スクールサポーターなど教育に携わるような経験はほとんどしていませんでした。そのような中、知り合いから紹介していただいた、兵庫県の小学校での自然学校の引率ボランティア（指導補助員）は私にとって貴重な経験になりました。四泊五日の間、自然の中で仲間とともに普段あまりできない体験や活動を通し、協力することの大切さなどを学ぶ活動です。登山や飯ごう炊さんをしたり、クラスでキャンプファイヤーのスタンプをしたりしているときの子どもたちの充実した表情は印象的でした。時間の限られたクラスの話し合いを通してみんなで作詞した歌詞を、火の周りを囲ってクラスの子どもたちが手を繋いで歌っている姿は、胸を熱くさせるものがありました。

小学校の先生はオールラウンダーで、国語や算数を教えるだけではなく、ピアノや水泳、書道など技術面でできた方がいいことはたくさんあります。時間のある学生時代に、一長一短では身につかない技術面をもっと磨いていれば良かったと感じます。どうすればできるかのコツを掴んでおくことは、指導する際の声がけに生かされるからです。他にも、さまざまな本を読み知識を蓄えておくことや、旅行で普段できない体験をすることも生かされます。教育は人と人との関わりなので、今まで自分が培ってきた知識や経験してきたこ

と、そのどれもが子どもたちに還元できるものだと感じます。

いま、私は個別支援級の担任として、さまざまな子どもたちの特性の理解に努めながら、手探り状態で子どもたちと関わっています。一人ひとりの特性を受け入れ適切な支援をすることは容易ではなく、勉強の日々です。毎朝、子どもたちが「先生、おはよう！」と元気にあいさつをしてくれることで、今日も頑張ろうと背筋がピンと正されます。

四年間は、思ったよりもあっという間に過ぎていきます。自分で考え、組み立て、使うことのできる自由な時間でもあります。後悔のないように、たくさん学びたくさん遊び、充実した日々を過ごしてほしいと思います。